

秋のイベント気軽に参加を

みくに大好き部会

ハッピーハロウィン魔法の地図

10月19日(土)午後2時~

みくにが大好きになるハッピーハロウィン「魔法の地図」は今年で16回目を迎えます。毎回、仮装した子どもたちで町並みはにぎわいます。



魔法の地図を手にニコリする子ども達

今年は合言葉を使ってお菓子をゲットするお店と、スタンプを集める場所を準備しています。三国南、北小校下の子どもたちはぜひ参加し、地図を頼りに三国の街を楽しく歩きましょう。またお手伝いしてもらえらる中学、高校生も募集します。

健康福祉・育成部会

ディスクゴルフのつどい

11月3日(祝)午前9時~



毎年恒例の「ディスクゴルフのつどい」を11月3日(祝)、坂井市海浜自然公園で開催します。ボールのかわりにディスクを投げ、専用のゴールに投げる回数を決めるゲーム。子どもからお年寄りまで、スポーツが苦手な人も簡単に楽しめます。秋の空の下、和気あいあいとゲームを楽しみつつ、心身ともに健康づくりにぜひご参加ください。家族での参加も歓迎です。

いずれの行事も詳細はCOM+にてお知らせします。お問い合わせは三国コミュニティセンターまで。

高校生がサロンを体験



「将来は何になりたい」などにぎやかに会話する高校生

まちなかサロンの高校生がボランティア体験をしました。三国高校生2名が訪れ、地域の高齢者とおしゃべりをし、ふれあいのひとときを過ごしました。夏休み中には出村北前茶屋とまちなかサロンの2ヶ所で中高生合計10人が体験しました。

生活環境部会

シバザクラ植栽

11月2日(土)午前8時~



笑顔で植栽する中学生

夕見公園のシバザクラ植栽事業。昨年は三国中男女バドミントン部らの生徒はじめ多くの地域のボランティアの協力をいただきました。

春には夕見公園を彩るピンクの花で地域の方々の目を楽しませました。

15年目を迎える今年の植栽は張り替えたシートに大野のシバザクラの里実行委員会が育てた苗500株の植付けを予定しています。皆様のご協力をお待ちしております。

神明社例大祭 三国節輪踊り

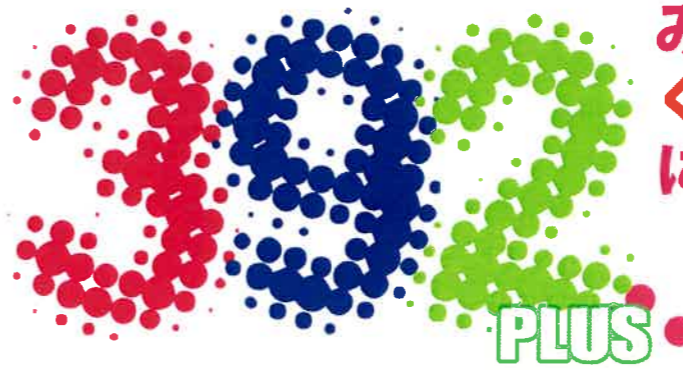
9月14日(土)午後7時~



伝統的な輪踊りの風情が楽しめる神明社輪踊り。輪踊りの風情を楽しみ、その良さを残していきたいように、気軽に参加してください。

- 節電・エコライフ講座10月16日(水)
- まちかどの花と緑のフォト募集
- カンタケ栽培講習会11月25日(月)
- エッセル坂クリーン大作戦11月10日(日)

つづやま
能登半島地震アンケートの結果...とても興味深かったです。避難は徒歩がセオリーですが、車での避難が半数。高齢者を連れた避難などそれが避けられない現状なのです。となるとこれからの地区防災計画にも大きく影響してきます。いざという時に混乱を最小限に抑えるために、このアンケートはとても有益だと感じました。今回は地域限定でしたが、より広範囲でのデータがあればもっと防災面の参考になるのかも。(希)



みんなのくふうでにぎやかに...
楽しく一緒にまちづくり
みくにの魅力プラス!!

まち協だより72号 発行 24.9.12

編集 みくに地区まちづくり協議会

能登半島地震アンケート結果 (2・3面に特集)

■秋のイベント紹介(4面)



三国神社の隨身内の下宮守の赤い傘
ここで結婚した二人はその後どうなったんだらう。あれは知今んけど

日記の参考例



日記の参考例 (2面に詳細)
比叡の入口
下は家の中へ
流れるいせな
(平) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十) (十一) (十二) (十三) (十四) (十五) (十六) (十七) (十八) (十九) (二十) (二十一) (二十二) (二十三) (二十四) (二十五) (二十六) (二十七) (二十八) (二十九) (三十) (三十一) (三十二) (三十三) (三十四) (三十五) (三十六) (三十七) (三十八) (三十九) (四十) (四十一) (四十二) (四十三) (四十四) (四十五) (四十六) (四十七) (四十八) (四十九) (五十) (五十一) (五十二) (五十三) (五十四) (五十五) (五十六) (五十七) (五十八) (五十九) (六十) (六十一) (六十二) (六十三) (六十四) (六十五) (六十六) (六十七) (六十八) (六十九) (七十) (七十一) (七十二) (七十三) (七十四) (七十五) (七十六) (七十七) (七十八) (七十九) (八十) (八十一) (八十二) (八十三) (八十四) (八十五) (八十六) (八十七) (八十八) (八十九) (九十) (九十一) (九十二) (九十三) (九十四) (九十五) (九十六) (九十七) (九十八) (九十九) (百)

10月まで「日記」募集



2の部の歴史散策

三国の歴史を訪ねるシリーズ「歴史散策」が6月8日に行われました。55人が参加。松ヶ下西光寺では住職の案内でお寺の中を見学し、雪が降った時に雪が屋根から落ちるようになっている「むくり屋根」などについて説明を受けました。また龍翔小学校跡がある愛宕山にも登り、当時の風景を思い起こすひとときとなりました。



三国北小児童がアサガオ植栽

三国北小学校の1年生児童3人が6月11日、三国コミセンでアサガオの苗を植えました。生活環境部会員の説明を受け、児童はプランター17個に苗一株ずつ、ていねいに土をかぶせました。植えられた苗は、7月下旬には花を咲かせました。アサガオの窓の外に張ったネットの上の方まで伸び、きれいな花を次々と咲かせていました。

祝？時と過ぎた頃 山車やえのちびとんが
屋台の中を歩く山車やえのちびとんの音が
うしろかじと電線上げの妙な一体感が宿まれる。



三国の風情や思い出を日記に

三国大好き部会では絵や写真を取り、三国の風景や物語、食べ物などを日記でつづる作品を募集しています。

三国の良さを県内外に向けてアピール、ファンを増やそうと企画しました。絵や写真にまつわる小さな思い出、風景などを日記に書いて応募します。文字は手書きで構いません。

小学生、中学生、高校生、一般の4部門があり、優秀作品は小冊子にまとめて三国の魅力として紹介していきます。本号の表紙にも参考例を紹介しましたので、ぜひ自分だけの日記を完成させてください。

三国コミセンにある応募用紙に記入して提出するか、

LINEのオープンチャット「三国写真絵日記」に投稿してください。締め切りは10月31日。優秀作品にはインスタントカメラなどの賞品があるほか、12月にコミセンギャラリーに展示します。

10月5日に
三国大好き寺子屋

「三国北前ストリーム」の一環で、午前9時に三国コミセンへ集合。三国の歴史の紹介や日記の作り方などの説明を受けた後、題材になりそうな場所を巡回します。アーバンデザインセンター坂井が開いている「湊ノ芸術祭」の会場である金鳳寺や茶ノ下旅館なども訪れます。参加希望者は9月30日までに「三国」コミセンまで。

地域の特性を考慮した防災計画が必要

能登半島地震住民アンケート

今年度2回目の防災ミニ教室が8月25日、三国コミセンで33人が参加して開かれました。防災安心部会が実施した住民アンケート結果を踏まえて、協力した同会顧問の竹田周平氏（福井工大教授）が現状や課題を説明しました。

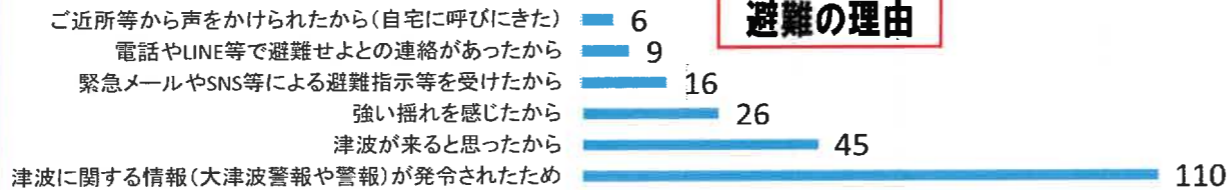
竹田氏は能登半島地震が「想定を上回る規模だった」として人的被害は想定より4.5倍、住居被害は130倍だったとし、

住民の避難行動から課題探る

地震発生時の住民の避難行動から浮かび上がった今後の方策について意見を述べました。

避難手段が「徒歩」と「車」が約半数だったことについては、徒歩が原則といわれているが「坂があったり、避難所が遠いほかに高齢者や要支援者がいるなど地域性がある」として「新しい方法を考える時代」と強調。「小さな地区ごとに避難や防災の個別計画を立てていくことが必要」と課題を提示しました。

避難の理由



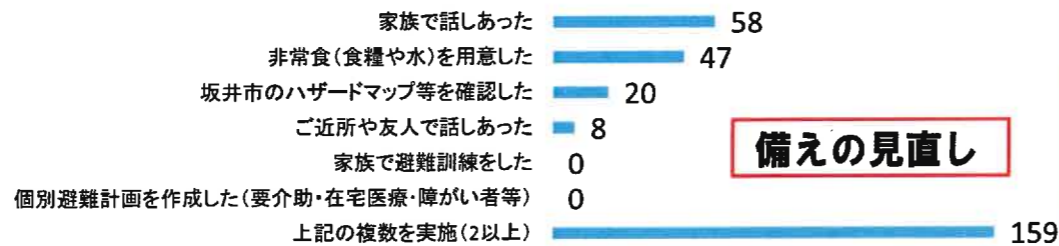
「大津波警報が発令された」「津波が来ると思った」が合わせて155人にのぼります。津波の恐怖が初めて現実になり行動したことが数字に表れています。電話やメール等の避難指示も24人おり、通信手段の大切さを感じるとともに、近所から声をかけられ避難した人もいて、地域での活動成果とも受け止められます。

ペット避難

はい 32名
いいえ 226名

ペットは、32人が同伴して避難しています。回答者の約10人に1人がペットを連れてきました。避難先で車などで過ごしたようです。避難所開設の場合、ペット同伴の人をどうするかが課題です。

備えの見直し

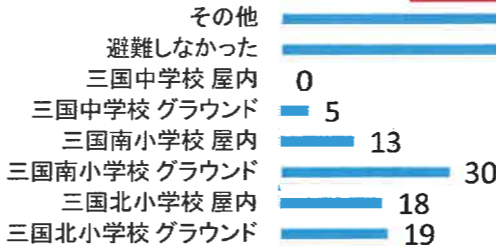


初めて避難を経験したことによって、住民の意識がどう高まったか。アンケートからは、「家族で話し合った」がトップ。災害時の心構えとしていつも家族間の連絡は必須となっていますが、実際に避難したことから家族間のルールを決めておく大切さを感じたようです。同時に「非常食を準備した」が47人と経験を活かし見直しをしたようです。地区内に高齢者や要支援者がいる場合の個別避難計画をどうするか、今後の大きな課題です。

1月1日の能登半島地震に住民はどう行動したのか。防災安心部会では地震時の住民の意識を探ろうとアンケート調査を行いました。避難した住民の行動パターンが初めて明らかになりました。

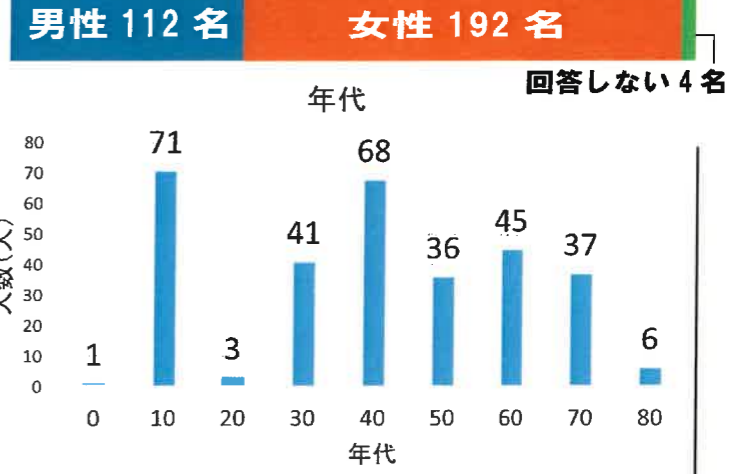
※グラフの数字は人数

防災・安心部会



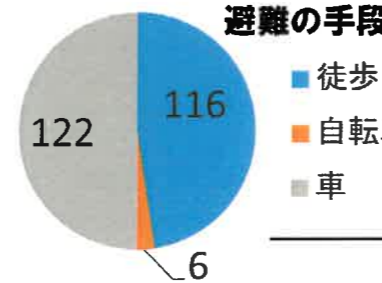
調査数と年代

調査対象は市街地(1~4の部)の2,400世帯。そのうち308人から回答がありました。年代的には10代が一番多いようですが、これは中学校へ協力を呼び掛けたため。子供など家庭を抱えている40代、60代、30代の人からの回答が目立ちました。



避難の有無 避難先

徒歩と車が半々



避難の手段

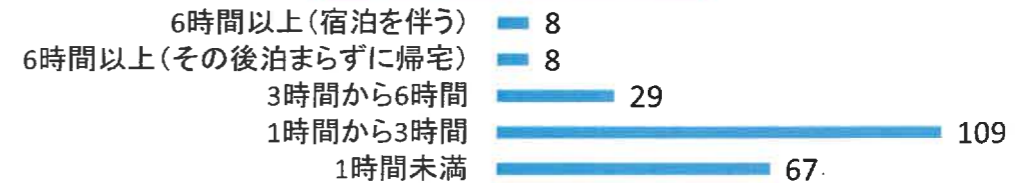
- 徒歩
- 自転車
- 車

避難の手段は徒歩とマイカーがほぼ同数を占めています。避難は「徒歩」が原則のようですが、高齢者や要支援者、長い坂を伴う場所、冬季の寒さなどマイカーを使用せざるを得ないという地域実情もあるようです。

「避難しなかった」のは92人を占めますが、これは予想津波の高さが届かない高台の地域に住んでいる人が多いため。徒歩で三国南小や三国北小のグラウンドに集まった人は体育館のカギが開くとともに屋内へ移動したようです。

行政は事あるごとにマニュアルを重視しますが、ローカルなルールも必要かもしれません。渋滞、駐車スペースなど課題も多く「車での避難」の論議も欠かせません。

避難先での滞在時間



滞在時間は1時間から3時間が圧倒的に多く、1時間以内が続いています。避難したものの大きな津波や余震の兆候もないため帰宅したようです。区長らは避難解除の明確な指示をすることは不可能で、行政が姿を見せる前にはそれぞれ個別の判断で自宅へ帰ったとみられます。

避難所の認知

知っていた 267名
知らなかった 41名

避難所については「知っていた」が87パーセントの267人を占め「知らない」を大きく上回りました。避難所を知っていた人が多いのは、永らく住んでおり地域の実情をよく知っているからでしょう。

